

坂の上通信

平成二十八年十月二十八日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部（四〇三演習室）

韓国ホサン高校が来校

放課後 講堂で歓迎会

10月21日金曜日、韓国ホサン高校の教員と生徒24名が来校し、講堂で歓迎会が行われた。歓迎会は美高吹奏楽部の演奏から始まり、「宝島」「シンクセン



韓国の楽器を使った演奏。この後合唱も披露された。

グ」などが演奏された。次に両校の先生や生徒会長からの挨拶があった。ホサン高校の先生からは「この交流会がみんなにとって良い思い出になるようにしま

しょう」と通訳を通じてメッセージが送られた。最後にホサン高校の生徒から発表があった。内容は、韓国の笛など楽器を使った演奏。また韓国語での合唱も披露された。両校とも、先生も生徒も大いに盛り上がり、講堂内にはたくさんの笑顔があふれていた。

高岡先生の話

今回のホサン高校来校について、中心となって準備をされた高岡先生に話を伺った。

ホサン高校とはメールで日程を決めていったのですが、韓国の高校生は11月が受験のシーズンで、また美高も修学旅行や中間試験があり、調整が大変でした。去年は12月に行われましたが、今年は10月だったので、ボランティアの募集が間に合う心配でしたが、大勢の生徒が集まってくれたので安心しました。今年度は全校生徒に韓国語の紙を配るなど、

机の上の美術館

先生の机の上のちょっとしたインテリアを紹介する企画「机の上の美術館」。今回は、国語科の藤本先生の机を取材した。写真は全部で5種類ある動物シリーズのフィギュアで、カプセルトイとして販売されている。少しでも関心を高めてもらうよう工夫もしました。

土曜日の宮島観光はあいにくの雨でしたが、ホサン高校のみなさんも、美高のボランティア生徒も楽しく交流できたと思います。



く続けたそうである。2人とも動物が大好きだそう。

1年生 大学訪問へ

10月18日火曜日、1年生は広島大学ほか県内の大学を訪問した。記者は広島市立大学を初めに訪れたが、構内は非常に広く、清潔な印象を受けた。大学の説明を聞いた後、構内を巡り学食も食べた。高校とは違い、校舎が学部ごとに分かれているのが印象的だった。また、芸術学部の卒業制作を見ることができた。

次に県立広島大学を訪れた。ここでは、在学生に話を聞くことができた。図書館が非常に大きく、約50万冊もの本を所有しているらしい。美高の図書室の蔵書が約3万冊であることを考えると、規模の大きさがうかがえる。今回の行事を通じて進学への関心や意欲がより高まったと思う。

学校の「顔」にインタビュー



今回は、国語科の合原先生にお話を伺った。ありますか？ 体育系のマネージャーをやりたいを思っていました。思うような部活がなかったので、実際にはできませんでしたが。小さいときの夢はな

【合原 実世先生】
○10月26日生まれ
○血液型 A型
○趣味 歌舞伎鑑賞

修学旅行レポート（四日目）

最終日。バイキング形式の朝食を済ませ、ホテルを出発した。バスに揺られること約50分、浅草寺に到着した。浅草寺の参道は仲見世通りとも呼ばれ、日本でも最も古い商店街の一つである。通りを抜けると浅草名物の雷門が見えてきた。真ん中に大きく「雷門」と描かれた提灯は、まさに圧巻だった。

浅草寺ではおみくじを引くこともできる。ここのおみくじは凶が多いことでも有名だ。100本中、30本が凶だという。記者が引いたところ、みごと大吉だった。これは100

中17本だそう。浅草を出て、約1時間でスカイツリーに到着した。全高634mだが、我々が上ったのは高さ350mの展望デッキ。それでも相当の高度だが、エレベーターは1分もかからないうちに展望デッキへと到着した。もう少し上には展望回廊（450m）があるが、別途料金が必要だ。

展望デッキからは東京のほぼ全域を見渡すことができ、まさにスカイという名にふさわしい風景だった。

その後は昼食をすませ、バスで東京駅へ。新幹線に乗り、夕刻に広島に到着した。こうして、今年の修学旅行は無事終了した。



広島県立大学での説明。高校との違いを改めて知る。

美・鈴・鈴・鈴

美高の修学旅行は、ここ数年関東方面、主に東京へ出かけている。東京の観光スポットとしては浅草寺やスカイツリーが定番だ。この二つは場所が比較的近いのでセットで見に行くことが多い。私達もそうだった。ただしこの二つはできた時代が大きく異なる。スカイツリーは2012年に完成。浅草寺の由来は、推古天皇の時代までさかのぼる。最近できたものと大昔にできたもの。二つを並べて見ることにどんな意味があるのだろうか。▼単独での見学なら「よく知らない文化に触れる」という意味に落ち着くだろう。しかし並べて見ることによって、過去から現在への移り変わりに思いをはせることができるのだと私は考える。▼技術の進歩、時間と時代の移り変わりを、修学旅行というイベントを機に認識し直す。そうすることで、修学旅行は自らの見聞や視野を広げるよりよい機会になるだろう。

（吉田峻）

編集後記

年一度しか交流できないので、私はホサン高校歓迎会が行われるたびに新鮮な気持ちになる。楽しくあったという間の一時間だった。